

平成30年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	学生学修ルームを活用した学生の能動的学修の喚起とその波及	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	理学部	
※連携する他学部・機関がある場合は記入		
実施責任者(所属)	飯山拓 (理学部化学コース)・川村嘉春(理学部物理学コース)	
取組の目標	学生同士の学修上の交流を促す「学生学修ルーム」を中心とした様々な取り組みによって、学生の能動的学修を喚起し、それをできるだけ多くの学生に波及させ、学修の楽しさを実感できる環境の構築を目指す。	
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生同士の学修上の交流を促す場として、「学生学修ルーム」の提供を行い、場所の拡充、設備の充実を行った。 2. 上級生(サイエンスラウンジ学習指導相談員)が下級生の学習指導・相談・質問に応じる場として、「サイエンスラウンジ」を運用した。 3. 能動的学修意欲をさらに高める取組として、「自主ゼミ」を推奨・支援した。 	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)	a. 達成できた	<p>(評価理由)</p> <p>テスト期間のみならず、通期にわたり「学修ルーム」を利用し共同して学修に当たる学生がみられるなど、取り組みが浸透する様子が見られた。サイエンスラウンジと自主ゼミを通じて、学生の学修に関する意欲・理解度の向上、学修に取り組む雰囲気づくりが図られた。なお、学習相談者の延べ人数は 229 名(前期 158 名、後期 71 名)であった。</p>
		<p>(今後の展望)</p> <p>学修に取り組む「雰囲気」づくりは継続してこそ、その真価が発揮されるものなので、次年度以降も授業との連携を密にし、さらに ICT(情報通信技術)の利用等、学生の参加の敷居を低くする工夫を盛り込みながら、取り組みを続けたい。</p>